

2008年5月号

シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

教室主任・岸井隆幸教授より新年度を迎えてのご挨拶



新学期が始まり、初々しい学生たちがキャンパスの中をまぶしそうに歩く姿を見かけるようになりました。彼らは、当然、平成生まれです。ついこの間昭和の幕が下りたような気がしますが、いまや平成も20年、時の流れの速さを感じます。皆さんは「駿工」という雑誌をご存知でしょうか？実はこの「駿工」、理工学部の前身、日本大学高等工学科の機関誌で創刊は1925年10月でした。その最初の記事が、校長佐野利器の入学式の訓辞です。

国の発展のためには工学の発達が不可欠であるとした後、心得として「人に何が一番大事であるか？これは学科、若しくは技術小手先のことよりもその小手先を働かしむる肝（はら）である」と説いています。人格の修養こそが大切であるという考え方は80年を経て技術者倫理教育と結びつくものがあります。

日本大学理工学部土木工学科も気がつけば100周年まで後12年です。今年から本格的な温故知新の取り組みを始めます。まずは90周年に向けて資料収集を進めています。もし、日大・理工・土木の歴史を語る戦前の資料をお持ちでしたら、是非土木事務室までご提供下さい。

平成20年度入学式挙行される

平成20年度日本大学入学式が4月8日、日本武道館において行われました。本年度の理工学部土木工学科入学生は学部生264名、大学院理工学研究科土木工学専攻27名でありました。

また4月4日に、入学式に先駆けて新入生へのガイダンスが行われ、緊張して説明を聞く新入生の姿が見受けられました。なお、2年編入生4名、3年編入生5名も新しく土木工学科に編入学しました。



ガイダンスの様子

平成 20 年度 1 年生クラス担任

本年度の 1 年生クラス担任は下表の 10 名の先生方がご担当くださることになりました。

◆1年生クラス担任 土木教室教員

資格	氏名	主な担当科目
教授	徳江 俊秀	地盤力学
教授	安田 陽一	水理学
准教授	鈴木 順一	数値計算
准教授	羽柴 秀樹	測量学

一般教育教室教員

資格	氏名	主な担当科目
准教授	加藤 昇一郎	歴史
准教授	村上 雅彦	分析化学
専任講師	坂元 啓紀	物理
専任講師	柴原 俊昭	地学
専任講師	J・ファラウト	英語
助手	森長 正樹	体育

平成 20 年度求人情報

平成 20 年度、土木工学科卒業予定者及び大学院土木工学専攻終了者に対する各企業からの求人募集がすでにスタートし、現在のところウェブ応募や 157 件ほどの求人依頼が土木工学科に来ております。又、公務員関係の試験も受験申込みが始まっており学生諸君は就職試験に向かって真剣に取り組んでおります。

◆就職担当教員

	資格	氏名
学部就職指導委員長	教授	野村卓史
4年生クラス担任	教授	大津岩夫
	教授	前野賀彦
	専任講師	梅津喜美夫
	専任講師	高橋正行
学科内公務員試験対策委員	専任講師	後藤浩
	助手	重村智
土木事務室	助手	鈴木裕子

平成 20 年 4 月から土木事務室に新任助手 2 名が配属

土木事務室に、昨年度土木工学科を卒業した鈴木裕子さん、渡辺匠平君の 2 名が事務助手として配属されました。すでに初勤務から 1 ヶ月が過ぎ、日々、土木工学科のために尽力しております。



〔鈴木裕子さんからのあいさつ〕

平成 20 年 3 月に卒業し、今年度の土木事務室助手としてお世話になります。私も皆様と同じ卒業生として、現在の土木工学科のより一層の発展を目指し、努力していく所存です。一年間ですが、よろしく願いいたします。



〔渡辺匠平君からのあいさつ〕

4 月から新しく日本大学理工学部土木事務室助手になった渡辺です。皆様が築いてきたこの伝統ある日大理工土木工学科の職員として恥ずかしくないように精一杯頑張ります。今後とも何卒宜しくご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。

日大土木 Who's who

日大土木とともに歩んだ偉人を紹介するコーナーです。今回は日大土木の前身である日本大学高等工学校土木科の初代卒業生でもある松田勘次郎先生です。

No.11

氏名：松田 勘次郎 (まつだ かんじろう)

専門分野：道路、橋梁

略歴：

1895年(明治28年) 熊本県阿蘇郡山西村に生まれる

1922年(大正11年) 日本大学高等工学校土木科卒業(第1回卒業生)

卒業後鉄道省入省、関東大震災後、帝都復興院、内務省復興局に転じ復興事業に従事

1925年(大正14年) 日本大学高等工学校土木科専攻部卒業(第1回卒業生)

1946年(昭和21年) 山梨県土木課長(後に土木部長に就任)

1949年(昭和24年) 群馬県土木部長

1952年(昭和27年) 埼玉県土木部長

1956年(昭和31年) 埼玉県副知事就任

1955年(昭和30年) 日本大学兼任教授
(それ以前から土木工学科の講師として官と学を兼任)

1970年(昭和45年) 死去



日本大学高等工学校土木科の初代卒業生である松田勘次郎先生は、行政技術者として公共事業と総合開発に手腕を振るう一方、日本大学の講師として、日本大学理工学部土木工学科の発展に大いに尽力された。また、多忙な日々の激務の寸時を利用して、多くの著書を物され、昭和30年5月16日「群馬大橋架設工事について」という論文によって日本大学より工学博士の学位を授与された。1956(昭和31)年11月27日に上野精養軒で埼玉県副知事就任祝賀会が開催されたが、その席上で「私は土木部長として山梨県、群馬県、埼玉県を遍歴して、かつまた今回副知事にまで進出したのは決して望んでなかったのではなく、いずれも懇望されてなったので、私自身は、かつて栄進の野望を抱いたことはなかった。ただ、エンジニアとしてこつこつと歩んで来たにすぎない。だが、私の所信はあくまでも大学に帰る事である。」と日ごろ抱いている所感を述べられた。

日本大学工学校友会が発行している「桜工」にも多くの随想を寄稿されており、その中にも「“心の古里”それは学びし窓であった母校である。社会に出てから喜びにつけ悲しみにつけ、心の励ましになるのは、共に語らい共に学んだ級友の懐かしい面影である。このような意味で、校友会機関誌としての桜工は学園と卒業生とを精神的に結びつける最も有力なる接着剤である……」と桜工に対する要望や「我国の様に独立した特殊教育機関が少なく、総合教育の濫立さて居る時代にあっては、余程各分野の学的個性を明らかにしないと、進学志望者の学校選択に大きな迷いを起こさせる恐れがある。又こうした漠然とした目標なしの学生を受け入れても質的低下を来す事は明らかだ。更に今日の如き学費負担が大きな悩みとなって居る時にあっては、一様に同程度の学校であったならば最小限度の経費削減の学校を志望するのが人の常である……」と新制大学教育についての大学に対する要望を述べている。

参考文献： 理工土木ニューズレター 藤井肇男、「土木人物事典」、(株)アテネ書房、2004年

最近の教員活動状況



鎌尾彰司准教授（環境地盤研究室）が日本大学海外派遣（長期派遣：平成19年4月10日から平成20年3月17日まで）から戻られました。派遣中はオランダのデルフト工科大学附属デルフト地盤研究所に客員研究員として所属し、『軟弱粘性土地盤の長期沈下に関する研究』に取り組みました。

今月号と来月号にわたり、鎌尾先生のオランダでのご活動をご紹介します。

【いざオランダへ】

平成19年4月10日～平成20年3月17日までの約11ヶ月間、海外派遣研究員（長期）としてオランダ・デルフトにあるデルフト地盤研究所（GeoDelft）に滞在いたしました。オランダは13世紀以来、自国の領土を「干拓」によって確保してきた国であり、その排水に利用されたものが風車であります。オランダ国土のおよそ25%は海面下に位置するために、以来今日までの長きにわたり、洪水・高潮など水との闘いを続けてきている国であります。

GeoDelftは、1934年に鉄道盛土崩壊の大惨事の後に地盤工学分野の研究・調査のために創立され、デルフト工科大学土木工学科（1842年設立）と共にオランダの地盤工学の発展に貢献してきました。

【長期地盤沈下の予測法の確立に向けて】

今回の派遣でGeoDelftを選んだ理由として、これまで私が研究対象としてきている軟弱地盤（特に高有機質土）に関する研究が精力的に行われているという点であります。オランダの地盤はライン川の支流からの堆積物等により砂・粘土・有機質土の互層になっております。有機質土は、歴史の一時期に燃料用として採掘されてきていたそうですが、未だにオランダの広い面積を覆っており、構造物の建設の短期間に、その後の供用中の長期間にわたり地盤沈下が生じ、上部構造物に被害や支障を与えるという事例が数多く報告されてきております

この軟弱地盤の長期沈下の予測法の確立を目指し、2000年からGeoDelftのE. J. den Haan博士と共同研究を行ってきております。今回の滞在中のテーマとして、「過圧密地盤の長期沈下予測に必要なアイソタックパラメーターの評価」ということを掲げ、定ひずみ圧密試験装置や三軸圧縮試験装置などを用いて、荷重・除荷の室内実験を中心に取り組んできました。その他にもサンプリング試料の品質および物性把握として弾性波やCTスキャンを用いた評価手法の開発にも取り組みました。次号においては、オランダの土木技術をご紹介します予定です。



岸井隆幸教授（都市計画研究室）は、テレビ朝日系列にて4月13日（日）の18:56から2時間放送された、爆笑問題司会の「近未来予測テレビ ジキル&ハイドーあなたの足もとに未来がある！日本の巨大地下！仰天潜入スペシャル」に出演しました。その中の「最新！地下高速道路」で解説を行うと同時に、ボストンの地下高速道路（big dig）や地下駐車場の紹介を行いました。